

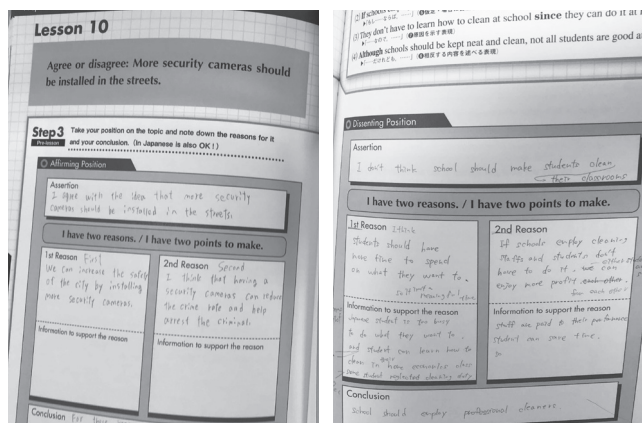


オンライン英会話を受講する生徒たち。

ロボット、AIにとってかわられるか」などのトピックについて、講師に対して英語で意見を述べる。ワークブックを利用して、事前に自分の考えをまとめ、事後に振り返りをする。

このレッスンでは、英語で考え、英語で自分の意見をまとめるといって高度なスキルが求められる。特にアドバンストのトピックは、社会問題についての関心や問題意識を持っていないと容易には自分の意見をまとめられない。

「生徒と教員の双方から、もっと興味のある題材について自由に楽しく話したい・話させたい



「ロジカルスピーキングトレーニング」のワークブックは、事前のまとめと事後の振り返りに活用されている。

という希望があり、このレッスンを導入しました。高3生は全員アドバンストを受講していますが、生徒の学力に合わせてというよりは、むしろ生徒が面白いと感じ、自分の意見を持ち、それについて話してみたいであろうトピックが選ばれているからです」(ミラー教諭)

「ロジカルスピーキングトレーニング」の利点については、

「生徒が外国の同世代の人達と英語で話してみたいと感じるトピックが用意され、対立する意見についてもそれぞれに使える例文が豊富に用意されています。また、各レッスンの最後のページにある Further Information は、英語学習にとどまらず、表やグラフをふんだんに取り入れて社会問題を解説してあるので、読み物としても大変興味深いです」と高く評価する。

生徒たちも楽しんで受講しているという。予習の段階で次のトピックを意識し、自分なりの意見をもち、ワークブックにまとめておく。講師との会話では、自分の意見をどう表現すればよいかに集中できる。

「生徒たちは、レッスン中、活気にみなぎっています。精選された題材と資料などが生徒の知的好奇心を刺激し、何を知り、何を発信したいかという意欲を向上させています。また、常にロジカ

ルな構成を意識しているので、Writing Skillにも直結しています」(ミラー教諭)

コロナ禍の今だからこそ世界の問題に関心を

これらの取り組みは、英語の習得を最終目的とするのではなく、さまざまな分野で新たな知識やものの見方を学ぶツールとして英語を使えるようになってほしいという思いに基づく。

「現在進行中の問題について、生の発信、機を逸さない報道に触れ、問題意識を持つてほしいですね。コロナ禍で他に対して無知・無関心になりがちなので、心寄せたい。英語教育が『自分だけがよければ』という心根から自分を解放し、『他に心を寄せることのできる』人になるための一助となるよう願っています」(ミラー教諭)

同校の取り組みからは、従来ありがちなグローバル教育とは一線を画す、信念に基づいた教育の実践を感じることができている。

英語教育を「他に心を寄せる」人になるための一助に

筑紫女学園中学校・高等学校の実践

「21世紀に求められる真の学ぶ力・生きる力」の育成をめざす筑紫女学園中学校・高等学校では、英語教育を「自分を知り、他を知り、世界の問題を理解し、解決に向けて行動する」人材の育成に資するものと位置づけ、その実践を行っている。

福岡の地に筑紫高等女学校として建学以来110年を超える歴史を歩んできた筑紫女学園中学校・高等学校は、伝統を踏まえながら「21世紀に求められる真の学ぶ力・生きる力」の育成をめざし、「創ミライAIプログラム」を実施している。その大きな柱の1つが、生きた本物の英語を身につけた真のグローバル人材の育成をめざす教育だ。「英語を学ぶことで他を知り、同時に自分をよりよく知る。そして、自分のアイデンティティや文化、価値観を発信する。世界で起こっている問題を理解し、他と話し合い、問題解決に向けて行動する」。同校の英語教育には、そうした人材を育てたいという願いがこめられている。

中高全員にオンライン英会話を導入

英語を聞き、話せるようになるには、英語の話者と会話をする機会を持つことが効果的だ。同校では、2018年度から1〜高3の全学年の授業にオン

ライン英会話を導入している。英語科のミラー智子教諭が、導入の経緯やねらいについて語る。「日本人は一般的に英語が苦手ですが、その中でもスピーキングやライティングといった Productive Skills が圧倒的に足りていません。授業でもできるだけ多くの生徒にコミュニケーションの機会を与えようとしています。どうしても一人当たりの時間は限られます。そこで、外国人との authentic な『age of』のコミュニケーションの時間を確保し、生徒が楽しみながら実践的に学べるようにとオンライン英会話を導入しました。『学研オンライン英会話』は、ハード・ソフトの両面で教材がしっかりしています。また、フィリピン人の講師は優しくフレンドリーな人が多く、しっかりと事前研修も行われていると思います」

生徒たちは、教員が期待した以上に楽しんで受講しているという。フィリピン人講師の英語についても、これからの時代は、ともに母国語ではない英語での

コミュニケーションが求められるようになると考えられるため、よい実践的練習の機会になっていくと捉えている。生徒からももっと練習したいという声が多く、今後は受講回数を増やしていく計画だ。

社会問題についての意見を英語でまとめ、発信する

同校では、高2・3生に対して「ロジカルスピーキングトレーニング」を導入している。これは、英語でロジカルに説明するための「主張↓根拠↓結論」の型を繰り返し練習し、定着させるレッスンで、スタンダードとアドバンストがある。スタンダードでは「将来の夢」「インターネットは子供に良くないか」、アドバンストでは「生徒に教室の掃除をさせるべきか」「人は



筑紫女学園
中学校・高等学校
ミラー智子 教諭